

聖中だより

<http://schit.net/tama/jhhijirigaoka/>
ユネスコスクール・コミュニティスクール



学校教育目標

- ・心身ともに健康で実践力のある生徒
- ・深く考え進んで学ぶ生徒
- ・人や物・自然を大切にする生徒

年の初めに自分の「あたり前」を見つめてみよう

校長 麻生 隆久

年が明け、令和6年が始まりましたが、元日に発生した能登半島の大地震でお亡くなりになられた方々の御冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、いまだ安否が不明の方々の御無事をお祈り申し上げます。また、被災された皆様並びに御関係の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、生徒の皆さんは、この冬休みを健康で有意義に過ごせたでしょうか。家族との絆を深め、感謝の気持ちを表し、自分の役割を果たすことができましたか。特に年末は、大掃除など、皆さんが活躍できる場面は、いろいろあったと思いますが、たとえ、わずかな時間のお手伝いだったとしても、大切なことは、人の役に立とうとする気持ちを行動に表すことです。その経験の積み重ねが、きっと、「よりよく生きる」ことにつながっていくのだと思います。

ところで、皆さんにとって、令和5年はどのような年でしたか？世の中を見てみると、スポーツ面での面白い話題が多かったと思います。特に、野球のWBCをはじめ、いくつもの競技で、世界のトップレベルの国と互角に戦う様子は、私たちに勇気と感動を与えてくれました。その選手たちの姿に、テレビの前でも熱い声援を送った人も少なくないと思います。そうしたスポーツ選手の話題性で群を抜いていたのが大谷翔平選手でした。とくに、ドジャーズとの契約金が、世界のスポーツの中で最高額となったり、日本中の小学校にグローブを配ったり、そのスケールの大きさに誰もが驚いたことと思います。まさに、別次元のお話とも言えますが、彼のように、数々の功績を残し、話題を作り、富も名声も手に入れた人に対して、世の中には、その成功をねたむような人が少なからずいます。ところが大谷選手についてはそういう報道はほとんど聞かれません。大谷選手が誰からも愛されるのは、功績の大きさはもとより、その人間性にもよるところが大きいと思います。その一例として、彼がグラウンドで小さなごみを見つけて、さりげなく拾ってポケットに入れる様子をテレビで見た人もいると思います。しかしそれは、彼が日本にいるときからやっていたことであり、決してパフォーマンスでも嫌味でもなく、そうすることが彼の「あたり前のこと」になっているのだと思います。

彼のように、超一流の存在になることは極めて至難の業かもしれませんが、文句も言わずにごみを拾うことなら、誰でもできることです。しかし、現実的には、なかなかそれができないものです。逆に、スポーツや勉強が苦手でも、さりげなくごみを拾ったりすることができる人は、人間性の豊かな人だと私は思います。

暮れの大掃除でも、自分の役割を終えて、さりげなく他の仕事を手伝っていた人もいたと聞いています。そういう人は、学校でも家庭でも、それが「あたり前のこと」になっている人であり、世の中は、そういう人に支えられているのかもしれない。1年間の目標を考えるこの機会に、自分にできそうな「あたり前のこと」について、改めて考えてみてください。（第3学期始業式講話より）



【保護者・地域・関係の皆様へ】

昨年は、本校の教育活動に対し、格別の御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございました。おかげさまで、大きな事故もなく、生徒たちも、有意義で充実した学校生活を送ることができました。本年も、どうぞよろしく願いいたします。